

名古屋市シルバーパワーを活用した地域力再生事業

平成二十一年度アンケート調査を実施して～速報～

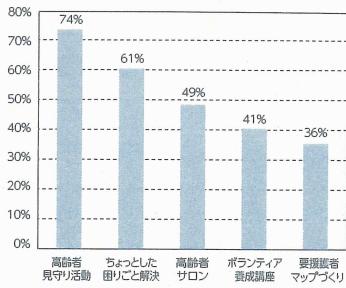
シルバーパワーを活用した地域力再生事業（以下「シルバーパワー事業」という。）は、個人のちよつとしめた困りごとなど、地域にある様々二ースを、地域の支えあいにより解決することを目指し、その取り手として団塊の世代をはじめとするシルバー世代の方の地域福祉活動への参加を促進する事業です。

平成二十一年度から名古屋市内四区八学区においてモデル実施し、平成二十一年度末で三年が経過します。

今回は、平成二十一年十月に八学区で実施したシルバーパワー事業の関係者や地域住民の皆さんへのアンケート調査について報告します。

「高い活動に関心が高いことが分かります。（表四）

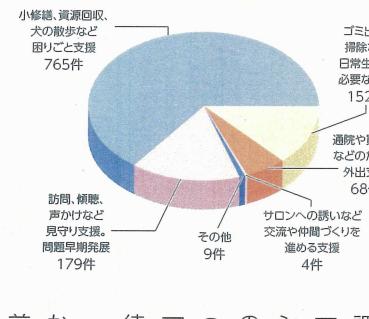
表4 今後必要だと思われる取り組み



「課題を表面化する方法は、「気軽に相談できる場所を身近につくること」

寄せられた困りごとに応するボランティアの調整や地域の社会資源を活用して地域の支えあいで解決するための調整を行っている地域福祉活動推進員（以下、推進員といふ）の調査では、「潜在的な課題を抱えている住民がいるか」との問い合わせに対し、四割が「大勢いる」と答えています。また、課題を表面化させた方法として、ほとんどの推進員が「誰もが気軽に相談できる場所

表5 地域福祉活動推進員への相談内容の内訳（平成二十一年度実績）



を身近な学区内につくること」を挙げています。

推進員への相談内容をみても個人のちよつとした困りごとが多く寄せられていることが分かります。実施八学区では、こういった困りごとを地域住民の皆さんの中によって支えあい、解決している事例が増えてきました。（表五）

地域の課題を把握して情報交換・協議する場の必要性

次に、こういった課題の把握や地域支えあい活動等について協議していく場であるシルバーパワー活用連絡会議が協議の場として有効かとの問い合わせに、約七割の関係者が「有効やや有効」と回答しています。また、「どんな場にしていきたいか」との問い合わせでは、「学区内における課題の把握・共有の場」（六十六%）、「メンバーの情報交換・ミーティング・ショーケースの場」（六十%）、「新たな担い手の発掘するための検討・協議の場」（五十五%）と答えて、地域のなかで、「協議の場」や「共有の場」づくりが期待されていることが分かります。

最後に、「今後の発展には何が必要か」について関係者が尋ねたところ、

「今後、必要だと思われる取り組みについて、6割以上の関係者が「ひとり暮らし高齢者等の見守りネットワーク活動」や「ちよつとした困りごとの解決」と答えて、要援護者の発見や見守り、地域支えあい活動への意欲が高まっています。

次に、個人のちよつとした困りごとに対する地域支えあい活動へ

の「地域住民の皆さんの取り組み意欲が高まっているか」という問い合わせに、約七割の関係者が「向上やや向上」と答えて、二十一年度よりも増えていることが分かります。（表一）

表1 地域住民の地域活動への参加意欲（向上・やや向上）

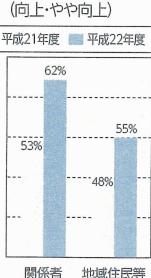
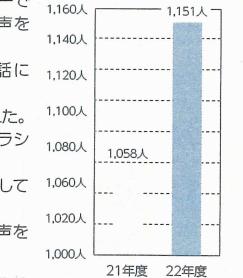


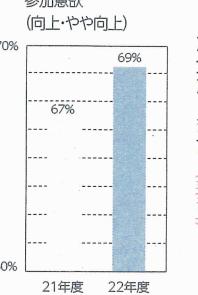
表2 ボランティアカード配布実人数



「関係者や住民の声」

- 学区行事への参加者が少しづつ増えている。
- ポスターや立て看板を見てボランティア活動について問い合わせを受ける人が多くなった。
- 施設で家族が世話をなつたので。
- 町内会長に勧められた。
- 新聞の折り込みチラシを見た。
- 災害ボランティアとして参加した。
- PTA役員終了後に声をかけられた。

表3 地域支えあい活動への参加意欲（向上・やや向上）



「関係者の声」

- 見守り活動やたまり場活動を通じて個別支援事業への意欲が確実に高まっている。
- 相談があればやりましょうという人が増えた。
- 課題が必ず出てくるようになった。
- 隣近所向こう三軒両隣で困りごとを解決しようとしている。

ほっとはあとコーナーは、ボランティア情報「ほっとはあと」を継承しボランティアに関するホットなニュースを編集ボランティア「ほっとはあとクラブ」と共にお届けします。

が、「誰もが気軽に相談できる場所」が「誰もが気軽に相談できる場所」を地域のなかで、「困りごと」を地域のなかで、「困りごと」を支援する重複する公的制度等では把握解決できません。このコーン

事例紹介

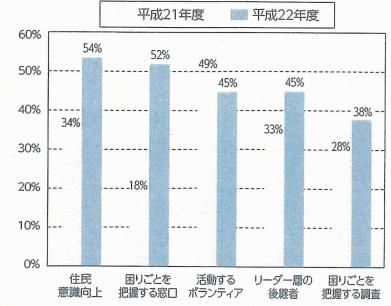
●腰が悪く重い物を持つことができない高齢者の普段のゴミ出しなどの困りごとを、同じ町内の登録ボランティアがお手伝いし、支えあっている。

●認知症の疑いのある高齢者を、推進員や同じ習い事のメンバーが意識的に見守り、いきいき支援センターとの情報交換を始めた。

●地域の課題を把握して情報交換・協議する場の必要性

●地域の課題を把握して情報交換・協議する場の必要性

表6 今後の発展には何が必要か



で解決するしくみづくりが必要であることが確認できました。（表六）

調査の結果、シルバーパワー事業を通じて、地域住民の皆さんの地域活動や地域支えあい活動への参加意欲が高まっていることが分かりました。地域の困りごとの解決していくために、個人のちよつとした困りごとなどを相談する窓口や地域の課題について地域の状況に合わせた具体的な解決策を協議する場が必要あるとともに、地域住民の福祉意識の向上を図っていく必要があることが分かりました。

本事業のお問い合わせ

名古屋市社会福祉協議会 地域福祉推進部 電話 〇五二一九一一三一九二二 フックス 〇五一九一三一八五五三